

38年の歴史に幕

勤労青少年ホーム閉館

4月1日から

瀬波地域コミュニティセンターが誕生



▲本館部分は「瀬波地域コミュニティセンター」として再始動

◀併設の体育館は「瀬波体育館」に名称を変更

昭和54年の開館から今日まで、働く若者の出会い・趣味・サークル活動の場として利用されてきた勤労青少年ホームが、3月31日をもって閉館します。

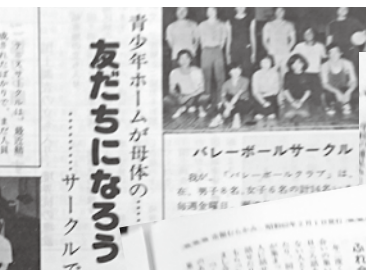
4月1日からは、本館を「瀬波地域コミュニティセンター」、体育館を「瀬波体育館」として、どなたでも利用できる施設に生まれ変わります。

なお、若者（15歳～39歳）を対象に行ってきた就労支援（サポステ・朝活）は、継続して実施します。

勤労青少年ホームは、趣味や教養、スポーツなどを通じて、学習や仲間づくりを求める若い勤労者に活動の場を提供するため、昭和54年に設置されました。

開設以来、教養講座（書道、茶道、料理、生花、着付など）やサークル活動（テニス、バドミントン、バレーボール、卓球など）を行ってきた。利用者同士の交流も頻繁に行われ、キャンプやバスハイキング、ミッドナイトウォーキングなどのイベントを開催。開設10年間で30組のカップルが誕生するなど、若い勤労者の交流と憩いの場となっていました。

しかし、少子化や生活スタイルの多様化などにより、近年は若い勤労者の利用が減少。今後は瀬波地域のコミュニティ施設として、幅広い世代からご利用いただけるよう生まれ変わることになりました。



勤労青少年ホームの歴史

昭和54年4月

勤労青少年ホーム開館

昭和56年4月

勤労者体育センター開館

平成2年3月

10周年記念誌発行

平成7年5月

利用者連絡協議会設立

平成20年4月

市町村合併

平成21年10月

旧軽運動場解体

平成22年4月

瀬波児童館竣工
(軽運動場跡地)

平成25年3月

利用者連絡協議会解散

平成30年3月

勤労青少年ホーム閉館



▲毎年秋に開催される「お茶の子祭」は、地域の子どもたちにとって、楽しいイベントでした



かとう まさよ
加藤 雅代さん

(勤労青少年ホーム前館長)
平成22年1月～平成29年2月

終わりは、始まり

「館長」と呼ばれて、勤労青少年ホームに7年間勤務させていただきました。楽しい職場であり、また面白い仕事でした。

設立当初から、施設利用は登録制をとっており、この制度によって若者の多様な活動は、リーダーを中心として人と人との交流や学習、また趣味を深めることができたのだと思います。

また、今まで行っていた若者への就労支援事業は、専門知識のある方へ引き継ぎました。

来月からは、瀬波地域のコミュニティ施設に変わります。今後は、地域の皆さんが施設を守り、育ててくれると思います。

当館で出会った「仲間・市職員・関係者」の方々に感謝いたします。

生まれ変わる施設にひとこと



なかむら まゆこ
中村 茉佑子さん

(手話サークル)

これからも気軽に、楽しく

私は友人の誘いをきっかけに、一年ほど前から手話サークルに参加しています。

初めて参加した際、周りは知らない方が多く、緊張もありました。しかし、サークルの皆さんの親しみやすい雰囲気により、自然となじむことができました。今では手話が初心者の私でも、楽しく参加させてもらっています。

来月からは、施設名が変わりますが、この施設でさまざまな活動が行われていることを、地域の皆さんに広く知っていただき、もっともっと利用してほしいと思います。

これからも、「人と人が気軽に・楽しく・交流できる場所であってほしい」と願っています。

●問い合わせ

「勤労青少年ホーム」商工観光課商工振興室 ☎53・2111 (内線354)
「地域」コミュニティセンター「自治振興課自治振興室」☎53・2111 (内線332)
「瀬波体育館」生涯学習課スポーツ推進室(マナボータ村上内) ☎53・2446



いしい しゅういつ
石井 秀逸さん

(瀬波地区住民代表)

生まれ変わる施設に一言

長年に渡り「勤労青少年ホーム」として市民に親しまれてきたこの施設は、若者のスポーツや趣味、また出会いの場として利用されてきました。

近年、時代のニーズの変化により、働く若者の利用者減少で、サークル活動団体も減少してきたことは、非常に残念に思います。

来月からは、「瀬波地域」コミュニティセンターとして生まれ変わります。今後は地域住民の皆さんが主役です。この施設を積極的に活用し、今以上に元気のある「瀬波」を築きましょう。